

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570108365		
法人名	有限会社ライフイン国見ノ里		
事業所名	ライフイン国見ノ里		
所在地	秋田県秋田市豊岩小山字前度表158-3		
自己評価作成日	平成28年8月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成28年9月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が周囲の生活、風土に慣れ親しみ、地域との交流も気軽にできるような環境づくりを目指し個人個人の残存能力の維持にも努めていきます。恵まれた自然の中で四季折々に花や野菜を植え収穫し、町内の祭りや行事に誘っていただきゆっくりのんびり日々の生活を楽しむことができることを目指しています。

広い敷地を有したホームは自然に恵まれた地域に立地し、その環境の中で自宅に居るよう自由にゆったりとした日々が送れるよう、利用者の思いを大切な事として受け止めてさりげない支援が行われています。また、協力して下さる地域の方に感謝しながら、周辺の環境を活かした近隣住民との繋がりを深め、利用者が楽しく過ごしていけるよう努力されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の理解と周知徹底、介護五訓を目標とする。	理念と共に掲示されている介護五訓は業務の中で自然に意識できる言葉で表現されており、職員は利用者と日々生活することで実践されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域内の「地域交流室」を基点に、地域や施設内の行事への招待などを通じて施設の生活を理解していただいている。「竿灯妙技披露会」「ババヘアアイス提供」「町内神社の祭り参加」等町内の方々と交流を楽しんでいる。	散歩を通じて利用者を知っていただくよう努めている他、ホームでの行事開催にあたり、子供達の参加や地元小学校の協力が得られたことから、今後更に地域との関わりを深めていけるよう検討されています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地元小学生社会探訪の受け入れ、施設行事などへの町内の方々の招待を通じ施設の生活や内容を理解してもらう。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進委員会において利用者の生活状況や介護の取り組み方などを参加した家族や委員に報告している。又、折にふれ行政、地域の消防、民生委員なども出席。施設への理解意と支援協力が得られるようにしている。	ホームの取り組みや課題を話し合い、サービスの向上に活かせるよう取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課、保護課、高齢福祉課等役所への相談、報告、指導。地域包括、成年後見、権利擁護からの指導や協力。それらに関する書類、利用者の生活、困難事例などの相談。	行政からは多方面での協力があり、連携しながら利用者の生活支援に繋がっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が拘束を理解しマニュアルに従う。やむを得ない拘束が必要となったときは医師、家族と相談了解を得る	マニュアルを整備して拘束のない支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やマニュアルのもと施設全体で常に関連法に従う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に成年後見、権利擁護を利用されている方がおられるため毎月専門家からの指導、助言を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関するすべては利用者や家族に納得していただくよう説明、理解、了解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事、面会時に要望や意見を伺い運営に反映している。	利用者と家族の関係性に配慮し、それぞれの立場を考慮した上で運営に反映できるように検討されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の介護の中での気づきや提案、意見等職員会議で提案し検討する。	職員からの意見や提案を取り入れ、環境整備、サービス提供に反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の労働環境整備、各種手当の支給、勤務時間の調整などの配慮、確認。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種の研修は職員それぞれ年1～2回参加しその結果を復命書で報告。あるいは職員会議で提案し皆で検討する。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設間相互訪問、研修や講演会などの参加により他施設との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	はじめは、本人と家族との面談を密に行い、お互いを理解し信頼でき安心できる生活を送れることを理解してもらえるように努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のこれまでの経緯、悩み、訴えをしっかり受け止め今後の安心感を感じていただく。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	在宅時の延長と感じてもらえるように、安心できる環境(健康管理、食事、清潔など)を整え入居者の希望に添えるよう配慮する。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは面会や通信手段などで連絡、相談を丁寧に行い双方の思いがつながるようにする。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅が遠く気軽に帰宅出来ない方も多い。出来れば地域の方々との新たな交流が出来るよう行事や日々の散歩などの交流を図っている。	利用者の性格や生活歴に配慮して自宅に居た時に行っていたことが継続できるように支援されています。周辺の環境を利用して、地域の人や場所が利用者にとって大切なものとなるよう検討しながら支援されています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段、周囲の人や出来事に全く関心のない方でも散歩などに出かけると互いの身を案じたりする姿が見られる。声掛けや介助、導きでの仲間意識を感じていただきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時前後の家族への相談支援、移行先の関係機関との連絡や相談等を密にし家族の不安や疑問をやわらげる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の動向やADLの観察、一人ひとりとの接触、傾聴、会話等丁寧に行う。	日々のコミュニケーションを大切にして利用者の思いを受け止め、それぞれの生活のペースに合わせて自由に生活できるよう検討されています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前後の本人や家族へのアセスメントを丁寧に行う。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に目視や観察、会話や声かけなどそばに寄り添うことによりわずかの助力が自立につながることをお互いに学ぶ。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いや希望を主軸とし、他に利用できるサービスや介護方法をまとめる。	担当職員及び全職員がカンファレンスで情報を出し合い、一人ひとりの状況に沿った介護計画を作成されています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や連絡帳、日々の申し送り、職員会議などで問題点を導きだし改善への対策を練る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自然に囲まれた環境での四季を楽しみ地域との交流も楽しんでいる。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の了解のもと定期通院、訪問診療、訪問歯科等の受診。情報や指示は連絡帳や日誌などで共有される。	ほとんどの利用者が協力医を主治医として定期受診の他、訪問診療にも対応していただいております。状況に応じて適切に支援されています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時や電話、FAX無事で指導、助言を受ける。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な訪問診療による主治医からの指導、指示あり。夜間対応あり。緊急時の搬送病院は家族の了解、あるいは希望で決まっている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応の受け入れは未定だが状況に応じて医師や家族と連絡を密にし家族や本人の希望に添えるよう検討する。	家族の希望によって対応されており、これまでホームでの看取りの実績はありません。主治医の協力は得られることになっており、状態に応じて検討することにされています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに従う。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	時間帯や季節、災害想定の内容等に合わせ地域住民の協力のもと定期的に訓練を行っている。消防署などの指導、講習内容は会議などで話し合い防災意識の向上を図る。	非常口から安全に避難できるよう通路が改善されています。ホームの立地上、水害に対する対策に検討が必要となっています。	火災に限らず地震、水害等の災害時に地域の協力を得ながら避難のタイミングや場所を確認し、安全に避難できる体制づくりを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各人のこれまでの人生経験に耳を傾け人生の先輩として理解し尊敬の面をもって接していく。	利用者の思いを大切にし、一人ひとりに合った対応をされています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくり時間をかけながら本人のはなしを聞くことによって本音を聞くことができることもある。会話や声かけが大事と心がけている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れを理解できない方にもその都度手を取り声をかけ笑顔を忘れない支援を行う。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面や髭剃りなどは嫌う方も居られる。部分的な処理や時間をかけての対応をしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は体調と高齢が重なり出来ない方が多くなってきたが野菜の下準備などはどうにかできる。	嚥下機能が低下してきており、職員の見守りが必要な状況ではありますが、量や盛り付け、見た目にも工夫して提供されています。移動販売車での買い物では自由に選んでいただいています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	どなたも好き嫌いなく適量を残すこともなく食されている。それぞれ食事のとり方が違うため介助が必要な方も居られる。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きなどは自力で出来ない方も多い。介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況の記録。男性は立位排尿の失敗が多いが洋式便器での排尿を拒むため便器清浄は必須。オムツをしていても尿意便意のある方は出来るだけトイレ誘導。	その人に合った声かけや時間誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援されています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日常生活での食事内容、水分補給、歩行などの軽い運動、主治医の薬処方もあり。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	面倒がって入浴を拒む方も多い。入浴への誘いや浴室での会話等楽しい雰囲気を作る。体調によりシャワーや清拭もある。	入浴を拒否する方が多い中、希望やタイミングを見計らい、声かけにも工夫しながら清潔保持できるように努めています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室で安心感が持てるよう、空調管理、掃除やリネン交換など清潔を保つ空間を提供する。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医が処方した薬を本人に確実に手渡し服薬を確かめる。便秘や頓服等医師の指示に従う。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの好みが違うが、2~3人のグループでトランプや将棋カラオケ等行う。ただ長続きはしない。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居期間が長くなり高齢にもなっている方が多いため遠出は難しい。園庭での散歩は行っている。春には地域の個人の庭園で花見をさせていただいている。	遠くに外出することが困難になりつつありますが、地域の方々に利用者を知っていただくことが目的の一つでもある散歩をし、花壇の草取りや移動販売車の利用等でホームに閉じこもらない支援をされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の了解のもと毎月の定額のお小遣いは施設で預かっている。日常の小物や訪問販売車でのおやつのは職員が付き添う。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方には職員が介助。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除、消毒、消臭、空調管理は重点的に行っている。入居者と職員が作った工作を壁に飾って楽しんでいる。	小上がりのスペースをフラットな床にしたことによりホールが広くなり、日々の生活に楽しみがプラスできる場所となっています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールを広くリフォームし体操や踊り、流しそーめん、寿司バイキングなどで動きが自由にできるよう工夫をした。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々人での好みに合わせ希望する家具や日用品を納めていただいている。	壁には職員が描いた似顔絵が飾られ、利用者の状況に応じた環境づくりがされています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立の一步をめざしご本人のやる気を進める。時に緊急時の避難経路の確認を兼ねての散歩等をし自覚できるようにする。		